3年後の希望進路の実現に向け、重要となる3つの教育課題とは

2020 年度から実施される「大学入学共通テスト」を最初に受験するのが、18 年4月に入学した高校1年生だ。3 年後の希望進路を実現するための指導を考えるにあたり、大学入学者選抜改革の内容と課題を整理する。

1年次			
2018			
年度中	6月末	7～9月	10～11月
各大学の入学者選抜方法等の予告・公表	「高校生のための学びの基礎診断」測定ツール申請締め切り	「高校生のための学びの基礎診断」測定ツール審査	「高校生のための学びの基礎診断」測定ツール公表

高校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的改革（高大接続改革）

- 学力の3要素を多面的・総合的に評価する **大学入学者選抜**
- 学力の3要素を育成する **高校教育**
- 高校までに培った力をさらに向上・発展させ、社会に送り出すための **大学教育**

学力の3要素とは

❶知識・技能の確実な習得
❷❶を基にした思考力、判断力、表現力
❸主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

各大学の個別選抜に新たなルールが設置され、すべての入試区分で多面的・総合的な評価を実施

◎「総合型選抜」（現在の AO 入試）、「学校推薦型選抜」（現在の推薦入試）では、小論文、プレゼンテーション、教科・科目に係るテスト、「大学入学共通テスト」等のうち、いずれかの活用を必須化。
◎調査書の記載内容を改善。両面1枚の制限も撤廃し、より弾力的に記載できるように。
◎出願時期を「総合型選抜」は8月以降から9月以降に変更。合格発表時期を「総合型選抜」は 11 月以降、「学校推薦型選抜」は 12 月以降に設定（これまでルールなし）。

改革の背景

◎国際化、情報化の急速な進展により、社会構造が急速に、かつ大きく変革している。
◎知識基盤社会の中で、新たな価値を創造していく力を育てることが必要。

改革の目的

◎そうした変化する社会において自立的に活動するために必要な「学力の3要素」をバランスよく育む。

*文部科学省「高大接続改革の動向について」（2017 年1月）、同「高大接続改革の実施方針等の策定について」（2017 年 7 月）を基に編集部で作成

思考力・判断力・表現力、英語4技能が問われる入試に

高大接続改革は、学力の3要素を育成・評価するために、高校教育・大学教育・大学入学者選抜を一体的に改革するものだ。2018年度高校入学生が直接影響を受けるのは、「高校生のための学びの基礎診断」「大学入学共通テスト」「個別大学における入学者選抜改革」であり、後者の2つは、生徒の進路にかかわる、いわゆる「大学入学者選抜改革」だ。

センター試験に代わって20年度から実施予定の「大学入学共通テスト」では、出題教科・科目等は現行から変更はないものの、各教科・科目の知識・技能とともに、思考力・判断力・表現力を評価する問題が中心となる。その象徴とも言えるのが、国語と数学での記述式問題の導入だ。そして、英語では、4技能評価を行うため、「大学入試英語成績提供システム」に参加する民間の英語の資格・検定試験を活用する。

どの入試区分でも多面的・総合的な評価を行う仕組みに

個別大学の入試では、「一般入試」

2024年度、次期学習指導要領を前提に改革がさらに進行

地理歴史・公民分野や理科分野等でも
記述式問題を導入する方向で検討。

2019		2020		2021	
2年次		3年次			
11月	初頭	4月	年度中	4～12月	5月	1月
「大学入学共通テスト」試行調査（プレテスト）実施	「大学入学共通テスト」「実施大綱」の策定・公表	「高校生のための学びの基礎診断」本格的な利活用開始	「大学入学共通テスト」確認プレテストの実施	「大学入学共通テスト」の枠組みにおいて活用される英語の資格・検定試験の実施 ◎実施に向けて、各試験団体には、検定料の負担軽減方策を講じることを求めるとともに、各大学には、受検者の負担に配慮して、できるだけ多くの種類の資格・検定試験の活用を求める。	「2021年度大学入学者選抜実施要項」発出	「大学入学共通テスト」実施

「大学入学共通テスト」の注目点❶

国語と数学で、思考力・判断力・表現力等を測る記述式問題を導入

◎国語では、古文・漢文を除いた内容から 80 ～ 120 字程度で解答する問題を含め 3 問程度、マークシート式問題とは大問を分けて出題される予定。試験時間は、マークシート式問題と合わせて 100 分程度。数学では、「数学Ⅰ」の内容から数式・問題解決の方略などを問う問題 3 問程度、大問中にマークシート式問題と混在して出題される予定。試験時間は、マークシート式問題と合わせて 70 分程度。

◎大学入試センターが作問、出題、採点。採点には民間事業者を活用。

「大学入学共通テスト」の注目点❷

民間の英語の資格・検定試験を活用し、英語４技能を評価

◎民間事業者が実施する英語の資格・検定試験を活用し、英語４技能を評価。

◎「大学入試英語成績提供システム」に参加する資格・検定試験を、各大学の判断で活用。高校３年４～ 12 月に２回まで受検可能。

◎「大学入学共通テスト」の英語試験は、「大学入試英語成績提供システム」に参加する資格・検定試験の実施・活用状況等を検証しつつ、2023 年度までは継続して実施。

「AO入試」「推薦入試」という従来の区分を、「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」に改める。それは単なる名称変更ではなく、内容も変わる。一般選抜では、各大学が「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）に基づき、様式が見直される調査書や志願者本人が記載する資料等も含めて、多面的・総合的に評価する。総合型選抜・学校推薦型選抜では、小論文、プレゼンテーション、教科・科目に係るテスト、「大学入学共通テスト」等のうち、いずれかの活用を必須化する。そのようにして、すべての入試区分で多面的・総合的に学力の３要素を評価する大学入学者選抜に転換が図られる。

以上の内容の下で初めて行われる大学入試を最初に受験する、18年度高校入学生の希望進路の実現には、

❶思考力・判断力・表現力等の育成
❷英語４技能の育成と評価
❸多面的評価

への対応が鍵を握る。実際、それらの課題に既に着手または着手予定の学校も多い（P.2）。各校はそれぞれの教育課題にどのような方針を立て、取り組もうとしているのか。次ページから3校の実践を見ていく。